

令和2年度

金沢大学大学院新学術創成研究科
ナノ生命科学専攻（博士後期課程）

ガイドブック
Guide book



GRAFIniti

新学術創成研究科

目次

I ナノ生命科学専攻の教育理念・目的、養成する人材像	1
II 指導教員一覧	3
III 令和2年度学年暦	4
IV 履修概要	5
1 科目一覧	5
2 授業科目の体系と区分・単位修得要件	6
3 修了要件	7
4 履修モデル	8
5 履修登録・成績通知等	8
V 教育・研究指導体制	9
1 主任研究指導教員	9
2 副主任研究指導教員	9
3 研究連携協力教員	9
VI 学位授与	10
1 学位申請	10
2 博士論文の提出	10
3 最終発表	10
4 学位論文審査	10
5 学位の授与	10
6 学位取得に至るスケジュール	11
VII その他	12
1 各種手続	12
2 各種証明書	12
3 アカンサスポータル・金沢大学 ID	12
4 ネットワーク ID・E メールアドレス	12
5 事務からの連絡	12
6 駐車場の利用	12
7 学生証	13
付図 【金沢大学 角間地区キャンパスマップ】	14

I ナノ生命科学専攻の教育理念・目的、養成する人材像

金沢大学が有する世界最先端の SPM 技術を用い、ナノレベルでの原子・分子の動態計測及び動的挙動制御を生命・物質科学分野に展開し、「未踏ナノ領域」を切り拓く博士人材を養成することを目的として、新たに博士課程「ナノ生命科学専攻」（以下、「本専攻」と表記。）を本学に設置するものである。具体的には、NanoLSI の研究実績を基盤とし、“高性能 SPM 等の革新的ナノ動態計測技術の研究開発に取り組む人材”と、“最先端の動態計測技術をナノレベルの生命現象の解明に向けた研究に展開する人材”の養成を行う。

○ ナノ生命科学専攻において学ぶ4つの領域

1: ナノ計測学 通常の顕微鏡技術では観察不可能なナノ現象を直接観察・理解する

ナノ計測学分野においては、世界トップレベルの SPM 技術による分子細胞動態のナノスケール・ライブイメージング技術を基に、「ナノ計測制御基礎論」、「ナノ生物物理学」、「ナノバイオロジー」等の科目で先端ナノ計測技術である各種 SPM 技術や蛍光計測技術、生体分子（核酸・タンパク質・脂肪）のメカニズムやその機能発現に伴う動的な構造変化について知見を高める。

2: 超分子化学 プローブ等へ応用し、革新的ナノ計測技術の開発へつなげると考えられる分子複合体の設計・合成

超分子化学分野においては、世界的な注目を集めている新規柱型リング状分子の開発等をはじめとする高度な制御性を持つ分子複合体を設計・合成できる知見・技術を基に、「高分子材料合成化学」、「錯体機能化学探求」、「超分子材料化学」等の科目で高分子や超分子等の機能や分子構造について知見を高める。

3: 生命科学 ナノ計測技術の応用先として期待されるがん等の生命科学研究

生命科学分野においては、がん研究に特化した国内唯一の共同研究拠点である本学がん進展制御研究所において卓越した実績を上げているがん幹細胞・微小環境分子標的治療の研究を基に、「腫瘍生物学特論」、「ヒューマン分子生物学」等の科目でがんに関連する分子生物学やがんの分子標的治療について知見を高める。これにより、分子細胞動態（細胞の分化・増殖、幹細胞性、シグナル伝達、ゲノム動態等）をナノ動態計測技術と融合し、がん悪性化メカニズムの解明に向けた研究に展開する素養を身に付ける。

4: 数理計算科学 計測で得られた実験結果から、原子・分子レベルの動態を知るためのマルチスケールシミュレーションを目指す

数理計算科学分野においては、生体分子から細胞レベルまでの複雑系シミュレーションで多くの実績を持つ研究者による「計算ナノバイオ科学」等の科目で生体分子の計算機シミュレーションのための物理モデルや解析法について知見を高める。これにより、物質・細胞の動きを空間・時間といった様々な階層で数理計算により解析するマルチスケールシミュレーションをナノ動態計測技術と融合し、ナノスケール分解能で得られた複雑な分子細胞動態を分子運動から解明する研究に展開する素養を身に付ける。

【養成する人材像】

あくなき探求心と人・科学・社会に貢献する高い志を持ち、世界最先端の SPM 技術を用い、ナノレベルでの原子・分子の動態計測及び動的挙動制御の知識を生命・物質科学分野に展開し、未踏ナノ領域を切り拓く研究人材。

【ディプロマ・ポリシー】

博士後期課程では、ナノ生命科学領域の授業や様々な研究活動を通じて、次に掲げる能力を修得させるとともに、所定の期間在学し、かつ所定の単位を修得した上で、博士論文の審査及び最終試験に合格した学生に「博士（ナノ科学）」の学位を授与する。

- 1) ナノ生命科学に関して自身の探求心・興味・関心に基づき全方位的に研究を実施できる能力
- 2) 自身の研究分野と他分野を融合させ研究を完遂する能力
- 3) 未踏の学際領域や新たな分野を開拓する能力
- 4) 最先鋭の研究に係るプレゼンテーション力・多言語コミュニケーション力・論文作成能力

【カリキュラム・ポリシー】

本専攻では、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げる学修成果に到達するため、ナノ生命科学領域に関するカリキュラム（教育課程）を編成する。具体的には、博士前期課程及び博士後期課程のそれぞれで、以下のように科目を体系的に編成する。

- 1) 研究者として未踏領域に挑戦する意欲を育み、科学に対する視野を広げるための基幹教育科目を設ける。
- 2) 分野融合を重視したナノ生命科学領域を学ぶに当たり必要な基礎的知識を基礎及び専門の 2 つのレベルに区分して、自らの研究分野以外の領域を含め、体系的に学ぶナノ生命科学基盤科目を設ける。
- 3) 研究していく上で必要となる基礎的な技能を身に付けるためのスキル科目を設ける。
- 4) 分野融合研究や学内外での多様な研究に参画し、他者とコミュニケーションしながら科学に向き合う姿勢を身に付けるためのプロジェクト科目を設ける。
- 5) 自身の研究分野に関する課題を発見し、プレゼンテーション力、文書作成能力を涵養する研究推進科目を設ける。

II 指導教員一覧

指導教員の職・氏名	研究分野・キーワード	居室
教授 福間 剛士	ナノテクノロジー、走査型プローブ顕微鏡、 原子分子分解能計測	自然科学2号館 Bブロック 616
教授 古寺 哲幸	生物物理学、一分子計測、高速原子間力顕微鏡	自然科学5号館 431
教授 秋根 茂久	錯体化学、超分子化学、構造有機化学	自然科学5号館 731
教授 前田 勝浩	高分子合成、機能性高分子、分子認識、不斉識別	自然科学1号館 Cブロック 617
教授 松本 邦夫	バイオテクノロジー、がんの生物学、細胞増殖因子、 創薬、タンパク質工学	がん進展制御研究所 417
教授 Richard Wong	細胞生物学、分子イメージング、核膜孔、 超解像顕微鏡、生細胞イメージング	自然科学1号館 Bブロック 414
准教授 高橋 康史	走査型プローブ顕微鏡、電気化学計測、単一細胞計測	自然科学2号館 Bブロック 612
准教授 柴田 幹大	膜タンパク、脳科学、顕微鏡技術	インキュベーション施設 B205
准教授 紺野 宏記	生化学、1分子計測	インキュベーション施設 B304
准教授 中山 隆宏	生物物理学	インキュベーション施設 B305
准教授 Clemens Franz	生物物理学、細胞生物学、原子間力顕微鏡	インキュベーション施設 B102
准教授 新井 敏	ケミカルバイオロジー、分子プローブ、熱力学、 細胞工学	インキュベーション施設 B101
准教授 奥田 覚	ES/iPS細胞、脳オルガノイド、胚発生、がん、 細胞生物学、生物物理学、バイオメカニクス、 大規模シミュレーション、立体組織培養	自然科学2号館 Bブロック 613

Ⅲ 令和2年度学年暦

第1クォーター・第2クォーター

曜	日	月	火	水	木	金	土
4	29	30	31	1	2	3	4
	5	6	7	8	9	10	11
	12	13	履修ガイダンス		学類オリ		18
	19	20	21	22	23	24	25
	26	27	28	29	30	1	2
5	3	4	5	6	水	8	9
	10	11	12	13	14	15	16
	17	18	19	20	21	22	23
	24	25	26	27	28	29	30
6	31	1	2	3	4	5	6
	7	8	9	10	11	12	13
	14	15	16	17	18	19	20
	21	22	23	24	25	26	27
7	28	29	30	1	2	3	4
	5	6	7	8	9	10	11
	12	13	14	15	16	17	18
	19	20	木	22	23	24	25
	26	27	28	29	30	31	1
8	2	3	4	5	6	7	設営
	CV	SC	11	12	13	14	15
	16	17	18	19	20	21	22
	23	24	25	26	27	28	29
9	30	31	1	2	3	4	5
	6	7	8	9	10	11	12
	13	14	15	16	17	18	19
	20	21	22	23	24	25	26
	27	学位授与	29	30			
授業*		7.5	7.5	7.5	7.5	7.5	回
試験*		0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	回

第3クォーター・第4クォーター

曜	日	月	火	水	木	金	土
10	27	28	29	30	入学 宣誓式	2	3
	4	5	6	7	8	9	10
	11	12	13	14	15	16	17
	18	19	20	21	22	23	24
	25	26	27	28	29	設営	金大祭
11	金大祭	撤収	3	4	月	6	7
	8	9	10	11	12	13	14
	15	16	17	18	19	20	21
	22	23	24	25	26	27	28
12	29	30	1	2	3	4	5
	6	7	月	9	10	11	12
	13	14	15	16	17	18	19
	20	21	22	23	24	25	26
1	27	28	29	30	31	1	2
	3	4	5	6	7	8	9
	10	11	12	金	14	設営	共通 テスト
	共通 テスト	18	19	20	21	22	23
	24	25	26	27	28	29	30
2	31	1	2	3	4	5	6
	7	8	9	10	11	12	13
	14	TOEIC-IP		17	18	19	20
	21	22	23	24	前期日程		27
3	28	1	2	3	4	5	6
	7	8	9	10	11	12	13
	14	15	16	17	18	19	20
	21	学位 授与	23	24	25	26	27
	28	29	30	31			
授業*		7.5	7.5	7.5	7.5	7.5	回
試験*		0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	回

 授業日
 試験日
 休業日

 長期休暇
 インターバル[※]

- 履修ガイダンス 4/14(火)・4/15(水)
- 学類等オリエンテーション 4/16(木)・4/17(金)
- 健康診断(全学年) 別途通知
- 入学宣誓式 別途通知
- 第1クォーター授業開始 4/20(月)
- 曜日振替日(水曜扱いの講義日) 5/7(木)
- 金沢大学開学記念日 5/31(日)
- Q1 補講週間 5/29～6/11の6限(2週間)
- 第2クォーター授業開始 6/19(金)
- 曜日振替日(木曜扱いの講義日) 7/21(火)
- Q2 補講週間 7/27, 29～8/11の6限(2週間)
- キャンパスビジット設営 8/8(土)
- キャンパスビジット 8/9(日)
- サマーカレッジ 8/10(祝)
- 9月期学位記授与式 9/28(月)

- 10月期入学宣誓式 10/1(木)
- 第3クォーター授業開始 10/1(木)
- 曜日振替日(月曜扱いの講義日) 11/5(木)
- 金大祭 10/31(土)・11/1(日)
- 金大祭設営・撤収 10/30(金)・11/2(月)
- Q3 補講週間 11/9・11/11～11/24の6限(2週間)
- 第4クォーター授業開始 12/8(火)
- 曜日振替日(月曜扱いの講義日) 12/8(火)
- 曜日振替日(金曜扱いの講義日) 1/13(水)
- 共通テスト設営 1/15(金)
- 共通テスト 1/16(土)・1/17(日)
- Q4 補講週間 1/21～2/3の6限(2週間)
- TOEIC-IP(1年次) 2/15(月)・2/16(火)
- 前期日程入試 2/25(木)・2/26(金)
- 学位記・修了証書授与式 3/22(月)

* 授業回数、試験回数は各クォーターにおける開講数を示す。
 ※ インターバルは休講日であるが、補講や集中講義を行うことがある。

IV 履修概要

1 科目一覧

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位		履修要件	
			必修	選択		
基幹展開科目	研究者として自立するために	1	1		・基幹展開科目から、必修科目を含む3単位以上修得すること。	
	学際ナノ生命科学概論	1		1		
	ナノ生命科学特論	1	2			
ナノ生命科学革新科目	ナノ計測学	ナノ計測工学特論	1・2・3		2	・ナノ生命科学革新科目から、4単位以上修得すること。
		ナノバイオロジー	1・2・3		2	
		生体分子構造動態論	1・2・3		2	
		電気化学計測特論	1・2・3		2	
		生体エネルギー論	1・2・3		2	
	超分子化学	錯体機能化学探求	1・2・3		2	
		高分子精密合成論	1・2・3		2	
	生命科学	分子細胞生物学	1・2・3		2	
		腫瘍生物学特論	1・2・3		2	
	数理計算科学	SPMシミュレーション特論	1・2・3		2	
生命ナノマシン理論		1・2・3		2		
高度スキル科目	博士実践スキル養成	1～2	1			
高度プロジェクト科目	萌芽的先鋭研究実習	1・2	1		・高度プロジェクト科目から必修科目を含む2単位以上修得すること。	
	研究留学A	1・2		1		
	研究留学B	1・2		2		
	研究留学C	1・2		4		
	学外高度実務プロジェクト実習	1・2		1		
	学外高度研究プロジェクト実習	1・2		2		
高度研究推進科目	先鋭的学際演習Ⅰ	1～3	2		・高度研究推進科目から、必修科目を含む10単位以上修得すること。	
	先鋭的学際演習Ⅱ	1～3	2			
	先鋭的学際演習Ⅲ	1～3		1		
	ナノ生命科学博士研究論文	1～3	6			

20単位以上修得すること。

2 授業科目の体系と区分・単位修得要件

2.1 基幹展開科目

「基幹展開科目」は、ナノ生命科学研究者として全方位的な研究を行うために必要な視点を強固にすることを目的とし、1年次に、「研究者として自立するために」（1単位）を設け、必修科目として位置付ける。ここでは、社会で信頼される研究を遂行し、研究者として自立するための倫理、規範意識、科学の社会的責任、研究費について取り扱う。また、博士後期課程からナノ生命科学を学ぶ学生に対し、ナノスケールのバイオ SPM 技術をベースとしたナノ生命科学の基礎となる知識基礎を履修する科目として「学際ナノ生命科学概論」を設ける。

【基幹展開科目の単位修得要件】

- ・「研究者として自立するために」、「ナノ生命科学特論」を含む3単位以上修得すること。

2.2 ナノ生命科学革新科目

「ナノ生命科学革新科目」は、博士前期課程ナノ生命科学基盤科目の「基礎科目」及び「専門科目」よりも高度なレベルの「高度専門科目」として位置付け、最先端のナノ生命科学を研究する上で必要な最新の学術動向等を学修するため、ナノ計測学、超分子化学、生命科学及び数理計算科学の各分野について、新たな領域の研究への挑戦に必要な最新の知見等を学ぶため、各分野2～4科目を配置する。

【ナノ生命科学革新科目の単位修得要件】

- ・4単位以上修得すること。

2.3 高度スキル科目

最先端の研究者として必須となる実践的な研究技能を身に付けるための「高度スキル科目」においては、「博士実践スキル養成」（1単位）を必修科目として位置付け、研究計画の立案するにあたり、データベースや文献などによる情報収集の方法やその分析方法、それらの分析などを参考として問題を発見し、課題を解決するための研究計画を立案し、文章化する方法を学ぶ。また、研究者として、学会や会議等で発表するためのプレゼンテーション技法等のサイエンスコミュニケーションに関する技術や究を完遂する上で必要となる研究プロジェクトのマネジメント方法等のスキルを学修する。

【高度スキル科目の単位修得要件】

- ・「博士実践スキル養成」（1単位）を修得すること。

2.4 高度プロジェクト科目

国内外の研究者とコミュニケーションしながら、真理を探究する姿勢を身に付け、研究者としての実践を積むための「高度プロジェクト科目」においては、「萌芽的先鋭研究実習」（1単位）を必修科目として位置付ける。この科目は、学外の研究者との共同研究に参加することにより、分析技術とコミュニケーション能力の向上を図り、研究対象の捉え方や、将来の共同研究への展開も見据えた研究ネットワークの構築を図らせる。

また、学外での研究実習等をおこなった場合、実習先と期間により次のとおり単位を認定する。希望者は、実習開始前1か月前までに新学術創成研究科係まで申し出ること。なお、ここでは、1週間の実習を5日、1日の実習時間は8時間を目安とする。移動や学会参加の期間は実習期間に含まない。

研究留学 A：1週間以上2週間未満の海外の大学、研究機関等における研究実習

研究留学 B：2週間以上1か月未満の海外の大学、研究機関等における研究実習

研究留学 C：1 か月以上の海外の大学、研究機関等における研究実習

学外高度実務プロジェクト実習：2 週間以上の企業等におけるインターンシップ

学外高度研究プロジェクト実習：2 週間以上の国内大学、研究機関等における研究実習

【高度プロジェクト科目の単位修得要件】

- ・「萌芽的先鋭研究実習」を含む 2 単位以上修得すること。

2.5 高度研究推進科目

自身の研究分野に関する課題を解決し、研究完遂能力、プレゼンテーション力を涵養する「高度研究推進科目」として、「先鋭的学際演習Ⅰ」、「先鋭的学際演習Ⅱ」（各 2 単位）及び「ナノ生命科学博士研究論文」（6 単位）を設け、必修科目として位置付ける。「先鋭的学際演習Ⅰ」においては、副研究指導教員の指導・助言により、研究、討論、学修等を通して、自身の研究課題に対して異分野からのアプローチ法を身に付け、自身の主テーマに関する知見をさらに深化させる。「ナノ生命科学博士研究論文」においては、主任指導教員の下、博士前期課程を含め、これまで学んだナノ計測学、超分子化学、生命科学及び数理計算科学の知見や研究成果を基に、英語論文の作成指導も受けながら、博士論文の質の向上を図り、博士論文をまとめる。

【高度研究推進科目の単位修得要件】

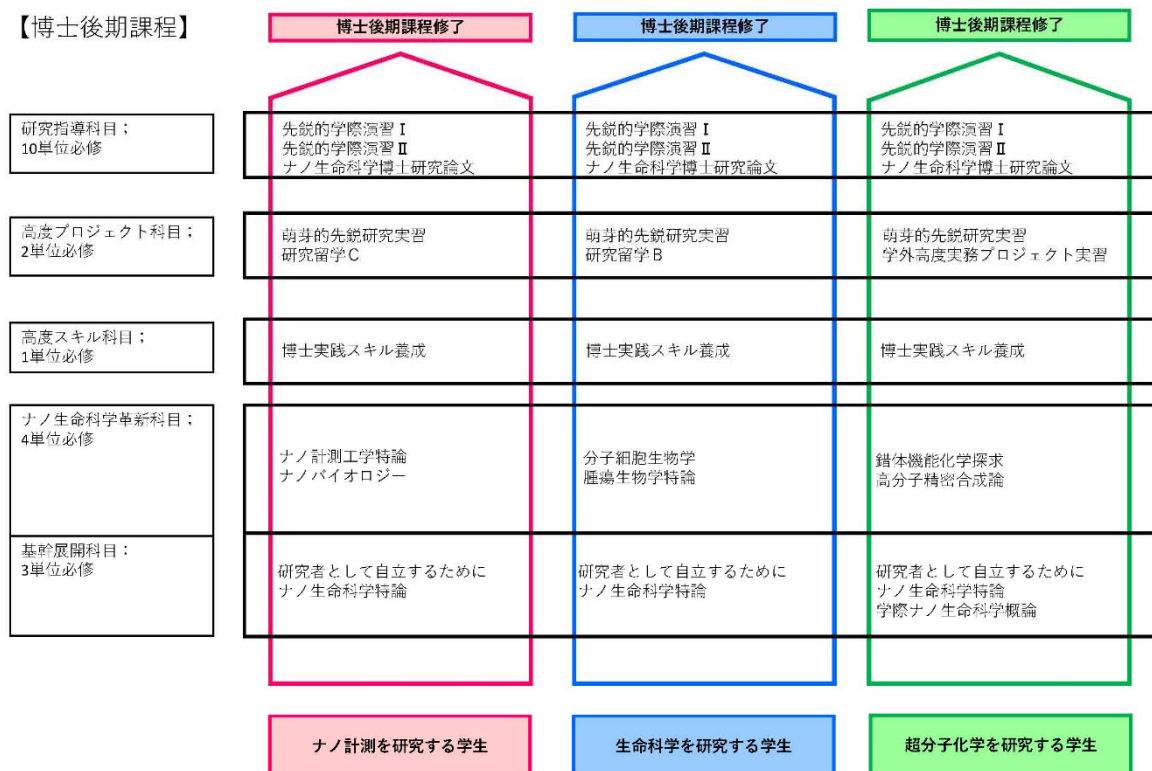
- ・「先鋭的学際演習Ⅰ」、「先鋭的学際演習Ⅱ」及び「ナノ生命科学博士研究論文」を含む 10 単位以上修得すること。

3 修了要件

以下に示す要件を全て満たしていることが修了に必要なとなる。なお、修了要件を満たしているか否かの確認は、指導教員と相談の上、各自責任を持って行うこと。

- (1) 原則として博士後期課程に 3 年以上在学すること。
- (2) 必要な研究指導を受けた上で、博士論文を提出し、その審査及び最終試験に合格すること。
- (3) 前述の 3.1 から 3.5 の単位修得要件を満たして認定を受けた単位を含めて、計 20 単位以上を修得すること。
- (4) 本学の他専攻で開講される科目についても、10 単位まで修了要件に含めることができる。例えば、自分の主任研究指導教員が他研究科向けに開講している科目の単位を修得した場合、10 単位までであれば修了要件に含めることができる。ただし、博士課程もしくは博士後期課程の科目かつ当該研究科が履修を許可した科目に限る。
- (5) 入学前に他大学院で修得した単位及び本学他研究科を含む他大学院で修得した単位は、研究科会議が認めた場合、(4) で修得した単位と合わせて 10 単位まで修了要件に含めることができる。

4 履修モデル



5 履修登録・成績通知等

5.1 履修登録

履修登録は、Web を利用して行う。詳細は別途通知する。

本専攻開講科目以外の科目の履修を希望する場合は、新学術創成研究科係からの通知メールに添付する「**他専攻授業科目履修願**」に必要事項を記入し、授業担当教員及び主任研究指導教員の押印を受けた上、本研究科が指定した期間（前期・後期の計2回）に新学術創成研究科係まで提出すること。

5.2 成績通知

成績は Web により通知する。

5.3 シラバス

シラバスは本学 Web サイトにて公開する。

V 教育・研究指導体制

教育・研究指導体制として、まず1年次4月、出願時に希望した主任研究指導教員の研究室に配属し、その後、速やかに副主任研究指導教員を決定する。これにより、教員が連携して研究指導を行う体制を確保し、学生個人ごとにきめ細やかな指導を行う。

1 主任研究指導教員

主任研究指導教員は、当該学生に対する教育研究上の指導の中心を担うものであり、研究テーマに関する授業の履修指導、研究指導、学位論文の作成指導等を行い、副主任研究指導教員と連携をとりながら、当該学生の指導に注力する。

2 副主任研究指導教員

副主任研究指導教員は、主任研究指導教員と連携をとりながら、当該学生の研究が複数の科学分野の融合を実践していけるものとなるよう、主任研究指導教員とは異なる見地からの指導・助言を行う。

3 研究連携協力教員

研究連携協力教員は、主任指導教員とは専門領域を異にし、学生に対し研究指導環境全体に関する相談や助言を行う教員のことで、本学に在学する全ての大学院生に配置することとなっている。

また、学生生活を支援するために本学に在学する全学生に配置することとなっているアドバイス教員と、重複する役割を持つため、本研究科においては研究連携協力教員がアドバイス教員を兼任する。

なお、研究連携協力教員の決定通知後は、学生が直接、担当教員へ連絡を取り、年2回（6月・11月頃目安）の面談を受けること。

VI 学位授与

1 学位申請

高度研究推進科目を除く修了要件を満たす見込みが付き、学位の授与を申請する者は、主任研究指導教員の了承を得た上で、学位申請書及び必要な書類を新学術創成研究科係に提出しなければならない。

学位申請書の提出時期は、修了予定月の2か月前の本学が指定する日までとする。

2 博士論文の提出

学位申請者は、主任研究指導教員の了承を得た上で、本学が指定する日までに博士論文を新学術創成研究科係に提出しなければならない。

3 最終発表

学位論文の最終審査として、公聴会及び最終試験を行う。公聴会は、学位論文の内容について発表し、両大学の教員及び学生に対して公開することにより、審査の厳格性や透明性を担保する。また、別途、学位論文に関連する科目について、審査委員会により最終試験を行う。

4 学位論文審査

学位論文の審査は、本学において行う。同審査の審査委員は5名以上で構成する。審査に当たっては、論文指導会及び最終発表で付された評価や意見を十分に考慮した上で判定を行う。

5 学位の授与

上述の学位論文審査の結果を踏まえて、研究科会議において、学位の授与に関する審査について審議する。研究科会議では、学位論文審査結果を基に、学生の最終発表で付された評価や意見についても確認した上で、ディプロマ・ポリシーに掲げる

- ① ナノ生命科学に関して自身の探求心・興味・関心に基づき全方的に研究を実施できる能力
- ② 自身の研究分野と他分野を融合させ研究を完遂する能力
- ③ 未踏の学際領域や新たな分野を開拓する能力
- ④ 基盤的な研究分野に係るプレゼンテーション力・コミュニケーション力・文書作成能力

の観点から合議により審議する。当該結果を受けて研究科会議等における必要な議を経た後、学位を授与する。

6 学位取得に至るスケジュール

以下は、3年間で課程を修了する場合の標準的なスケジュールである。主な事項のみを記してあるため、これ以外の事項及び具体的な日程については、研究科 Web サイト等で確認すること。

年次	月	事項
1	4	・研究室配属 ※主任研究指導教員の研究室に配属 ・副主任研究指導教員の決定 ・授業科目の履修
	5	・研究連携協力教員（兼アドバイザー教員）の決定
2	通年	・授業科目の履修
3	1	・学位申請書等提出 ・博士論文提出
	2	・最終発表会 ・修士論文審査
	3	・学位記授与

Ⅶ その他

1 各種手続

新学術創成研究科学生の各種手続等の窓口は、学務部学務課新学術創成研究科係（本部棟2階）となる。

TEL 076-264-5971 E-mail s-yugo@adm.kanazawa-u.ac.jp

2 各種証明書

各種証明書は、学内9か所に設置された自動発行機で発行できる証明書（在学証明書・学割証・在寮証明書・修了見込証明書・成績証明書・健康診断証明書等）と、新学術創成研究科係へ申請が必要な証明書（奨学金受給証明書・学研災保険加入証明書等）があるため、詳細は学生便覧や大学のWebサイトを参照すること。

3 アカンスポータル・金沢大学 ID

本学では、ポータルサイト「アカンスポータル」を運用しており、履修登録、成績通知のほかにも大学からの事務連絡やスケジューラー機能等さまざまな用途がある。ログインに必要な「金沢大学 ID」と「仮パスワード」はオリエンテーションにて通知するが、「金沢大学 ID」は生涯 ID でとても大切となるので、しっかりと管理すること。なお、詳細は学生便覧を参照すること。

4 ネットワーク ID・E メールアドレス

本学で、E メールアドレスを取得したり、無線 LAN 等を利用するためには、ネットワーク ID を登録する必要がある。登録は本学の「総合メディア基盤センター」の下記 URL より行うこと。

<http://www.imc.kanazawa-u.ac.jp/service>

なお、取得したネットワーク ID は、そのまま本学の E メールアドレスになる。

（例：登録したネットワーク ID が abcdefg の場合、abcdefg@stu.kanazawa-u.ac.jp が E メールアドレス）

5 事務からの連絡

学生への連絡は、その内容に応じ、次の3つの方法で行うので見落とさないようにすること。なお、連絡を見落とししたことによる不利益は救済しない。入学手続時に登録したメールアドレスを変更した場合は、必ず新学術創成研究科係へ連絡すること。

1. 主に研究科からの案内：入学手続時に登録したメールアドレス（連絡の取りやすいアドレスへ変更可）宛にメールにて通知
2. 中長期的に掲示が必要な案内：研究科 Web サイトの「在学生へ」のページに掲載
3. 他の Web サイトで公開されている、各種イベント案内：アカンスポータルにて通知

アカンスポータルでは、各種通知を個人の E メールアドレスに転送することができる。「設定」メニューの「転送用・緊急用メールアドレス設定」から、転送設定を行う等により、見落とすことがないようにすること。アカンスポータルの利用について不明な点があれば、ポータル内の「問い合わせ」ページから、FAQ で確認するか、フォームにより問い合わせること。

6 駐車場の利用

自家用車での通学は、交通ルールを順守し、くれぐれも安全運転に留意すること。

駐車場を利用する場合は、アカンスポータルにて駐車許可を申請すること。ただし、希望者全てに許可するとは限らないため、許可されない場合もある。

7 学生証

学生証は、新学術創成研究科係窓口にて配布する。身分を証明する以外にも、以下のとおりさまざまな機能を持ち、ICチップが埋め込まれているため、磁気に近づけない、強い衝撃を与えない等、取扱には十分注意すること。また、他人との貸し借りは絶対に行わないこと。紛失又は破損の場合は、交付手数料（2,200円）が必要となる。

- 一部の授業を受ける際の出席管理として
- 一部の建物の入館の際にカードキーとして
- 事前にチャージし、学内の食堂や生協で電子マネーにて支払うとき
- 図書館で本を借りるとき
- 定期健康診断を受けるとき
- 証明書自動発行機で各種証明書の交付を受けるとき

なお、紛失や盗難にあった時は、直ちにアカンサスポータルにて、ICカード一時停止申請を行うとともに新学術創成研究科係に届け出て、再交付の手続を行うこと。

担 当 金沢大学 学務部 学務課 新学術創成研究科係
〒920-1192 石川県金沢市角間町
電話 076-264-5971
E-mail s-yugo@adm.kanazawa-u.ac.jp